

科 目		分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教員名	太田 和幸	教員区分	一般教員

教科書	「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版)
参考書	「解剖学講義」伊藤隆 原著(南山堂) 「ネッター解剖学図譜」フランク・H・ネッター 著(丸善株式会社) 他に授業時に配布する資料を参考にする。
成績評価	定期試験の結果による。
留意事項	復習をして授業に臨むこと。

科目の目標	解剖学の概説を学び、統いて内臓系、運動器系、神経感覺系の構造と機能を知り、最終的には局所的構造を理解し、臨床科目や鍼灸実技で活用できる知識を構築する。
授業概要	人体を構成する組織、各器官の各部位・各臓器の正確な名称を把握する。 また、各器官のつながりや走行などの局所解剖としての位置関係と役割を理解する。

日程

回 数	授業内容
1	解剖学概論
2	解剖学総論 組織
3	循環器
4	呼吸器
5	消化器
6	泌尿器
7	生殖器
8	内分泌器
9	運動器
10	神経
11	感覺器
12	局所解剖①
13	局所解剖②
14	局所解剖③
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	臨床医学総論 II	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	3 2
		履修年次	1 学年
教員名	堀口 葉子	実施学期	前期

教科書	「臨床医学総論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版)
参考書	「臨床医学各論 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「生理学 第3版」 (公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「診察と手技がみえる vol. 1」 古谷伸之 編集(メディックメディア) 「絵で見る脳と神経 しくみと障害のメカニズム 第3版」馬場元毅 著(医学書院)
成績評価	定期試験
留意事項	基礎となる解剖学、生理学の復習や鍼灸臨床評価実習と併せた学習を行ってください。

科目の目標	医療従事者として臨床に不可欠な診察法、検査法の基礎知識を身に付け、鍼灸臨床に応用できる能力を養う。またその知識を活用し患者の訴える症状から正しい鑑別診断ができるることを目標とする。
授業概要	症状・所見から疾患や弁証に結び付けられるように、それぞれの特徴について講義する。

日程

回 数	授業内容
1	授業概要、第2章 診察の方法、第3章 生命徵候の診察1
2	第3章 生命徵候の診察2、第4章 全身の診察 顔貌～言語
3	第4章 全身の診察 身体診察～歩行
4	第4章 全身の診察 皮膚～その他
5	第5章 局所の診察 頭～喉頭
6	第5章 局所の診察 頸部～腹部
7	第5章 局所の診察 背部～四肢、第6章 神経系の診察 感覚検査法
8	第6章 神経系の診察 伝導路・反射
9	第6章 神経系の診察 脳神経、第7章 運動機能検査 運動麻痺
10	第7章 運動機能検査 不随意運動～ADL
11	第9章 臨床検査法 尿～血液・髄液
12	第9章 臨床検査法 生化学検査～画像
13	第11章 治療学
14	第8章 その他の診察
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	臨床医学各論Ⅲ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教員名	與那覇 真樹	教員区分	一般教員

教科書	「臨床医学各論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版)
参考書	「病気がみえる Vol. 7 脳・神経」 医療情報科学研究所 編集 (メディックメディア) 「全部見える 脳・神経疾患」 服部光男 監修 (成美堂出版) 「解剖学 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「生理学 第3版」 (公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「病理学概論」 (公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版)
成績評価	定期試験
留意事項	解剖学・生理学(免疫系、循環系、神経系、筋・運動系など) の基礎知識について復習し、不得意な領域をなるべく少なくしておく事。 同学期に学習している病理学(免疫系、感染症、炎症など) の専門用語も必要となるので注意してください。

科目の目標	神経系疾患の病態生理を把握し、症状や検査結果が類似する疾患を鑑別できる視点を養う事を目指す。
授業概要	神経系の構造・機能の知識に基づき、各神経系疾患の概念(病理や疫学上の特徴)・症状(自覚症状・他覚所見など)・診断(検査方法・検査結果など)・治療(薬物投与や手術などの種類など)・経過予後(生命予後や後遺症の有無など)を学習する。

日程

回 数	授業内容
1	脳血管疾患①：脳循環の解剖・生理、脳梗塞(脳血栓／脳塞栓)、一過性脳虚血発作
2	脳血管疾患②：脳出血、クモ膜下出血 感染性疾患：髄膜炎(ウイルス性髄膜炎(ポリオなど)、細菌性・結核性・真菌性髄膜炎)
3	脳・脊髄腫瘍①：脳腫瘍、神経膠腫、髄膜腫、転移性脳腫瘍
4	脳・脊髄腫瘍②：下垂体腺腫、神経鞘腫、脊髄腫瘍
5	基底核変性疾患：パーキンソン病、ハンチントン舞蹈病、脳性小児麻痺、ウィルソン病
6	その他変性疾患：脊髄小脳変性症、脊髄空洞症、進行性核上性麻痺、パーキンソニズム
7	認知症性疾患：認知症(アルツハイマー病およびアルツハイマー型老年認知症、 脳血管型認知症(多発脳梗塞型認知症)、ピック病、一般身体疾患に伴う認知症)
8	アレルギー性の神経および神経筋接合部での疾患： 重症筋無力症、ランバートイートン症候群、ギランバレー症候群、多発性硬化症、
9	筋疾患：重症筋無力症、進行性筋ジストロフィー、筋強直性筋ジストロフィー

1 0	運動ニューロン疾患：筋萎縮性側索硬化症、(シャルコー・マリー・ツース病)
1 1	末梢神経障害：ギランバレー症候群、圧迫性・紋扼性ニューロパシー、ベル麻痺、ラムゼーハント症候群
1 2	神経痛：三叉神経痛、肋間神経痛、坐骨神経痛、後頭神経痛
1 3	機能性疾患：緊張型頭痛、片頭痛、群発頭痛などの一次性頭痛、二次性頭痛の一部など
1 4	まとめ、試験の概要説明
1 5	定期試験
1 6	解答と解説

科 目	分野区分	専門基礎
	講義又は実習の区分	講義
	履修区分	必修
	単位数	1
	時間数	16
	履修年次	1年次
	実施学期	前期
教員名	下山 隆朗	教員区分
一般教員		

教科書	特になし
参考書	「社会あはき学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社)
成績評価	定期試験
留意事項	自分で考え、積極的に発言する。

科目的目標	治療者とは何か、治療者がとるべき態度はいかなるものか、治療者に必要なものは何か、そして何のために鍼灸師になろうと思ったのか、上記の事を踏まえ医療倫理を考察し、あわせて現代の諸問題、課題を考えていく。
授業概要	治療者としての基本的な心構え、知識を共に考えていく。

日程

回 数	授業内容
1	鍼灸師として将来はどうあるべきか①
2	鍼灸師として将来はどうあるべきか②
3	鍼灸師として将来はどうあるべきか③
4	鍼灸師として将来はどうあるべきか④
5	職業としての鍼灸
6	現代の課題、諸問題
7	定期試験
8	定期試験の考察

科 目	関係法規	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	16
		履修年次	1年次
	実施学期	前期	
教員名	原島 基	教員区分	一般教員

教科書	「関係法規 第7版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版)
参考書	特になし
成績評価	定期試験により評価します。
留意事項	法律は毎年改正されます。過去資料の使用には十分注意すること。 理解度を確認しつつ、進行します。状況により、シラバスの内容が変更されることもあります。 適宜プリントを配布する為、教科書と共に持参すること。

科目の目標	医療従事者として必要な法律の知識を理解し、携われる業務の境界線を理解する。
授業概要	法の概要と、あはき師法、医療法、医師法を含む医療従事者に必要な法律の知識を理解する。 法は患者、施術者を守ることと理解し、法の中で何が出来ることなのかを考え、理解を深める。 また、法の境界線についても理解を深める。

日程

回 数	授業内容
1	法の概要 免許と試験、業務について
2	届出(開設届け・出張届等)
3	罰則(あはき師法の罰則・医師法の罰則・医業類似行為等)
4	関係法規(医療法等)①
5	関係法規(医療法等)②
6	まとめ
7	定期試験
8	解答解説

科 目	はりきゅう理論	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教員名	原島 基	教員区分	一般教員

教科書	「はりきゅう理論」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社)
参考書	「はりきゅう実技<基礎編>」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社)
成績評価	定期試験による評価とする。
留意事項	遅刻・欠席をしないこと。 教科書は持参して下さい。 授業中、小テストを行います。自分の理解度を確認しつつ勉強することを心掛けて下さい。 進行状況により、シラバスの内容が変更されることもあります。

科目の目標	本科目は「鍼」と「灸」の基礎知識を学び、そのリスクについて理解することを目標とする。
授業概要	教科書に沿い、授業を行い、グループワークや映像や実際の道具に触れ、理解し覚えていく。 その内容を小テストで行い確認しながら授業進行していく。

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション
2	鍼の基礎知識
3	刺鍼の方式と術式①
4	刺鍼の方式と術式②
5	特殊鍼法
6	灸の基礎知識
7	灸術の種類
8	鍼灸の臨床応用①
9	鍼灸の臨床応用②
10	鍼灸の臨床応用③
11	リスク管理①
12	リスク管理②
13	リスク管理③
14	まとめ
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	経絡経穴概論 I	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教員名	内藤 玄吾	教員区分	一般教員

教科書	「新版 経絡経穴概論 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)		
参考書	「ツボがある本当の意味」 栗原誠 著 (B A B ジャパン) 「針灸学 [経穴編]」 兵頭明 翻訳 (東洋学術出版社) 「経穴主治症総覧」 池田政一 編著 (医道の日本社) 「臨床経穴ポケットガイド」 篠原昭二 著 (医歯薬出版) 「鍼灸経穴辞典」 天津中医薬大学 編 (東洋学術出版社)		
成績評価	定期試験による評価		
留意事項	授業内で経穴名、取穴法が覚えられるよう集中して臨むこと。 授業内だけで覚えられる量では無いので、自宅での学習に努めること。		

科目の目標	経絡経穴についての基礎的知識 (経絡名・経穴名・取穴部位) を理解習得し、鍼灸師としての基礎を作る。
授業概要	講義と体を使用したアクティブラーニングの形式で実施する。授業開始時と終わりに小テストを実施し、理解度を確認する。

日程

回 数	授業内容
1	1章 経絡・経穴の基礎、2章 十四経脈とその経穴 手の太陰肺經①
2	2章 十四経脈とその経穴 手の太陰肺經②、手の陽明大腸經①
3	2章 十四経脈とその経穴 手の陽明大腸經①
4	2章 十四経脈とその経穴 手の陽明大腸經②
5	2章 十四経脈とその経穴 足の陽明胃經①
6	2章 十四経脈とその経穴 足の陽明胃經②
7	2章 十四経脈とその経穴 足の陽明胃經③
8	2章 十四経脈とその経穴 足の陽明胃經④
9	2章 十四経脈とその経穴 足の太陰脾經①
10	2章 十四経脈とその経穴 足の太陰脾經②
11	2章 十四経脈とその経穴 手の少陰心經、手の太陽小腸經①
12	2章 十四経脈とその経穴 手の太陽小腸經②
13	2章 十四経脈とその経穴 督 脈、任 脉
14	まとめ
15	定期試験
16	解答・解説

科 目	東洋医学概論 I	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教員名	飯塚 聰	教員区分	一般教員

教科書	「新版 東洋医学概論」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社)
参考書	適宜、紹介をする。
成績評価	定期試験にて評価する。
留意事項	質問は授業終了時までに必ず行い、疑問を持ち越さないこと。

科目の目標	東洋医学についての基礎的な知識を学び、専門用語を理解する。 東洋医学的な人体の見方や病理を理解し、国家試験や臨床に応用する力をつける。
授業概要	東洋医学の歴史や哲学、人体の見方やその生理・病理を学ぶ。

日程

回 数	授業内容
1	第1章 東洋医学の特徴：天神合一思想・心身一如・治未病・養生・標本・補瀉など
2	第3章 東洋医学の思想：陰陽学説（陰陽の概念・分類・関係・区分など）
3	第3章 東洋医学の思想：五行学説（五行の概念・分類・相生・相克・色体表など）
4	第2章 生理と病理：生理物質と神（生理物質：精・気・血・津液の概念と作用、病理）
5	第2章 生理と病理：生理物質と神（神の概念と作用、病理）
6	第2章 生理と病理：生理物質と神（人体における陰陽：陰陽学説の医学的応用）
7	第2章 生理と病理：藏象学説（臓腑・奇恒の腑の関係など） 第2章 五臓とその機能に関連した領域（肝と胆の生理）
8	第2章 生理と病理：五臓と機能に関連した領域（心と小腸の生理）
9	第2章 生理と病理：五臓と機能に関連した領域（脾と胃の生理）
10	第2章 生理と病理：五臓と機能に関連した領域（肺と大腸の生理）
11	第2章 生理と病理：五臓と機能に関連した領域（腎と膀胱の生理・三焦と心包の生理）
12	第2章 生理と病理：五臓と機能に関連した領域（肝胆・心小腸・脾胃の病理と病証）
13	第2章 生理と病理：五臓と機能に関連した領域（肺大腸・腎膀胱・三焦心包の病理と病証）
14	前期試験範囲の復習
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	鍼基礎実習 I	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教員名	北園 実鈴	教員区分	実務教員

教科書	「はりきゅう実技<基礎編> 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社)
参考書	「はりきゅう理論」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社) 「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版)
成績評価	実技試験・授業態度・出席状況による総合評価。 実技試験が6割以下の者、及び総合評価が6割以下の者は再試験とする。
留意事項	実習内容について毎日反復練習に努めること 体調をしっかりと管理し、遅刻・欠席をしないこと(欠席-4点、遅刻・早退-2点、ふさわしくない身だしなみ-2点)

科目的目標	刺鍼の基本および身体各部への安全な刺鍼法を習得する。 鍼灸師として施術に必要な衛生概念を身につける。
授業概要	刺鍼に必要な基礎知識を学習する。衛生管理(用具・手指などの清潔保持、消毒)、医療過誤の概要を学ぶ。安全に適切な刺鍼が行えるよう基礎技術を習得する。

実務経験	鍼灸接骨院で勤務
実務経験と授業の関連	臨床で培った刺鍼技術を授業に取り入れる

日程

回 数	授業内容
1	鍼の基礎知識①、手指の衛生管理
2	鍼の基礎知識②、姿勢、鍼の衛生的な準備、刺手、挿管
3	押手
4	前揉法～立管①、切皮①
5	部位消毒、前揉法～立管②、切皮②、拔鍼
6	鍼の基礎知識③、部位消毒～切皮(各自：大腿部)①
7	部位消毒～切皮(各自：大腿部)②、刺入練習(刺鍼練習器など)①
8	刺入練習(刺鍼練習器など)②、鍼尖感覚の練習
9	鍼の基礎知識④、刺入練習(各自：大腿部)①
10	刺入練習(各自：大腿部)②

1 1	刺入練習（各自：大腿部）③
1 2	刺入練習（各自：大腿部）④
1 3	刺入練習（各自：大腿部）⑤
1 4	実技試験
1 5	フィードバック
1 6	刺入練習（各自：下腿部）

科 目	灸基礎実習 I	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
		教員区分	実務教員
教員名	前窪 美香		

教科書	「はりきゅう実技<基礎編> 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社)
参考書	「はりきゅう理論」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社)
成績評価	実技試験、課題提出、出席状況、授業態度、身だしなみによる総合評価。 実技試験が6割以下の者、及び総合評価が6割以下の者は再試験とする。
留意事項	火の取り扱いに十分注意し、自宅でも反復練習に努めること。 医療従事者としてふさわしい服装で参加すること(ふさわしくない身だしなみー2点)。 体調をしっかり管理し、遅刻・欠席・早退をしないこと(欠席ー4点、遅刻・早退ー2点)。

科目の目標	灸に関する基礎的な知識、技術を習得し、灸施術における動作を安全かつ正確に行える能力・態度を身に付ける。
授業概要	灸の基礎知識を学び、施灸の基礎技術を習得する。

実務経験	鍼灸接骨院で勤務
実務経験と授業の関連	臨床で培った技術を授業に取り入れる

日程

回 数	授業内容
1	授業の概要と進め方、実習上の諸注意、備品の取り扱い・準備について
2	灸の基礎知識①、施灸練習(艾のひねり方、艾の立て方)①
3	灸の基礎知識②、施灸練習(艾のひねり方、艾の立て方)②
4	施灸練習(線香の使い方、リスク管理)
5	施灸練習(点火)①
6	施灸練習(点火)②
7	施灸練習(灸温度計)
8	施灸練習(紙への施灸)①
9	施灸練習(紙への施灸)②
10	施灸練習(紙への施灸)③

1 1	施灸練習（紙への施灸）④
1 2	施灸練習（紙への施灸）⑤, 実技試験説明
1 3	実技試験
1 4	実技試験
1 5	試験のフィードバック
1 6	総合復習

科 目	トレーニング実習	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	1学年
		実施学期	前期
教員名	野呂 賢二	教員区分	実務教員

教科書	適宜資料を配布
参考書	授業中適宜紹介
成績評価	実技試験、出席、授業態度による総合評価。 実技試験が60点未満の者、総合評価が60点未満の者は再試験とする。
留意事項	遅刻や欠席をしないこと（欠席－6点、遅刻－2点）。 復習を行うこと。 個人のスポーツ経験に応じて、内容を変更していく。

科目の目標	基本的な人体構造を学ぶことで安全で安心して受療できる鍼灸師を目指す。
授業概要	運動器の基本的構造の理解と身体診察を学習する。

実務経験	中学、高校、大学、社会人、それぞれのスポーツトレーナーを経験。
実務経験と授業の関連	スポーツトレーナーとしての経験を授業に取り入れる。

日程

回 数	授業内容
1	トレーニング概論
2	ウェイトトレーニング総論
3	ウェイトトレーニング各論
4	トレーニング理論
5	上肢帯の骨・筋の動き①
6	上肢帯の骨・筋の動き②
7	下肢帯の骨・筋の動き①
8	下肢帯の骨・筋の動き②
9	体幹筋の骨・筋の動き①
10	体幹筋の骨・筋の動き②

1 1	対象者に応じたレジスタントレーニングのプログラム①
1 2	対象者に応じたレジスタントレーニングのプログラム②
1 3	対象者に応じたレジスタントレーニングのプログラム③
1 4	実技試験
1 5	実技試験の解答と解説
1 6	総復習

科 目	臨床医学各論Ⅱ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	後期
教員名	與那覇 真樹	教員区分	一般教員

教科書	「臨床医学各論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版)
参考書	「病気が見える」シリーズ(メディックメディア) Vol. 2 循環器, vol. 4 呼吸器, vol. 5 血液, vol. 6 免疫・膠原病・感染症
成績評価	定期試験により評価
留意事項	病態の理解を目標とする為,漫然と単語を暗記する作業に陥らないように注意する事.

科目の目標	臨床医学各論の分野における, 感染症, 循環器疾患, 血液造血器疾患, 呼吸器疾患について疾患名称とその病態把握を目指す.
授業概要	配布物を中心に, 各疾患についての概念, 症状, 診断, 治療, 経過予後を学習する.

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション, 感染症 1 (総論, 細菌感染症 1)
2	感染症 2 (細菌感染症 2, ウイルス感染症 1)
3	感染症 3 (ウイルス感染症 2, 性感染症)
4	循環器疾患 1 (心臓疾患 1)
5	循環器疾患 2 (心臓疾患 2)
6	循環器疾患 3 (冠動脈疾患, 動脈疾患, 血圧異常)
7	血液・造血器疾患 1 (赤血球疾患 1)
8	血液・造血器疾患 2 (赤血球疾患 2)
9	血液・造血器疾患 3 (白血球疾患, リンパ網内系疾患)
10	血液・造血器疾患 4 (出血性素因)
11	呼吸器疾患 1 (感染性呼吸器疾患)
12	呼吸器疾患 2 (閉塞性呼吸器疾患, 拘束性呼吸器疾患)
13	呼吸器疾患 3 (その他の呼吸器疾患)
14	まとめ
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	経絡経穴概論Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	後期
		教員区分	一般教員
教員名	内藤 玄吾		

教科書	「新版 経絡経穴概論 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
参考書	「ツボがある本当の意味」 栗原誠 著 (B A B ジャパン)
	「針灸学【経穴編】」 兵頭明 翻訳 (東洋学術出版社)
	「経穴主治症総覧」 池田政一 編著 (医道の日本社)
	「臨床経穴ポケットガイド」 篠原昭二 著 (医歯薬出版)
	「鍼灸経穴辞典」 天津中医薬大学 編 (東洋学術出版社)
成績評価	「カラー版 経穴マップ 第2版」王曉明 著 (医歯薬出版)
	小テスト3割、定期試験7割による総合評価。 定期試験ないし総合点が60点に満たない者は再試験とする。
留意事項	授業内だけで覚えられる量では無いので、自宅での学習に努めること。

科目の目標	経絡経穴についての基礎的知識（経絡名・経穴名・取穴部位）を理解習得し、鍼灸師としての基礎を作る。
授業概要	講義では経穴名の由来と主治について学び、それを基に自身の体で部位を確認していく。

日程

回 数	授業内容
1	2章 十四経脈とその経穴 足の太陽膀胱經1
2	2章 十四経脈とその経穴 足の太陽膀胱經2
3	2章 十四経脈とその経穴 足の太陽膀胱經3
4	2章 十四経脈とその経穴 足の少陰腎經1
5	2章 十四経脈とその経穴 足の少陰腎經2
6	2章 十四経脈とその経穴 手の厥陰心包經・手の少陽三焦經1
7	2章 十四経脈とその経穴 手の少陽三焦經2
8	2章 十四経脈とその経穴 手の少陽三焦經3
9	2章 十四経脈とその経穴 足の少陽胆經1
10	2章 十四経脈とその経穴 足の少陽胆經2

1 1	2章 十四經脈とその經穴 足の少陽胆經 3
1 2	2章 十四經脈とその經穴 足の厥陰肝經 1
1 3	2章 十四經脈とその經穴 足の厥陰肝經 2
1 4	まとめ
1 5	定期試験
1 6	解答・解説

科 目	分野区分	専門
	講義又は実習の区分	講義
	履修区分	必修
	単位数	2
	時間数	32
	履修年次	1年次
	実施学期	後期
教員名	飯塚 聰	教員区分
一般教員		

教科書	「新版 東洋医学概論」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社)
参考書	適宜紹介する。
成績評価	定期試験
留意事項	遅刻・欠席をしないこと。質問は授業終了時までに必ず行い、疑問を持ち越さないこと。

科目の目標	東洋医学についての基礎的な知識を学び、専門用語を理解する。 東洋医学的な人体の見方や病理を理解し、国家試験や臨床に応用する力をつける。
授業概要	東洋医学の基礎知識や成立の背景、人体の見方やその生理・病理を学ぶ。

日程

回 数	授業内容
1	第2章 生理と病理：臓腑の病理1
2	第2章 生理と病理：臓腑の病理2
3	第2章 生理と病理：五臓の相互関係1
4	第2章 生理と病理：五臓の相互関係2
5	第2章 生理と病理：六腑の協調関係
6	第2章 生理と病理：全身の気機
7	第2章 生理と病理：経絡
8	第2章 生理と病理：病因病機1
9	第2章 生理と病理：病因病機2
10	第2章 生理と病理：五臓の相互関係、経絡、病因病機の復習
11	第4章 四診：望診・聞診
12	第4章 四診：問診・切診
13	第5章 弁証論治：弁証1
14	第5章 弁証論治：弁証2、後期の復習
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	現代医学臨床論 I	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	3 2
		履修年次	1年次
		実施学期	後期
教員名	藤野 大輔	教員区分	一般教員

教科書	「東洋医学臨床論 <はりきゅう編>」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「新版 東洋医学概論」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「新版 経絡経穴概論 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「臨床医学各論 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
参考書	「図解 鍼灸療法技術ガイド I・II」 矢野忠 編集主幹 (文光堂)
成績評価	定期試験
留意事項	基本となる解剖(筋・支配神經)や生理の復習、教科書に書いてあることはアウトプットできるようにして下さい。

科目の目標	症状から疾患を鑑別し治療に結びつける能力を養い、特に注意を要する疾患に対しリスク管理ができるようにする。また、適応症と鑑別が行えることを目標とする。さらに各疾患について治療のみならず的確な生活指導を実施でき、臨床の幅を広げることを目標とする。
授業概要	症状・疾患ごとに重要なところを解説し、臨床で実践できるように講義する。

日程

回 数	授業内容
1	臨床論ガイドンス,第2章 治療各論 19. 肩こり
2	第2章 治療各論 20. 頸肩腕痛
3	第2章 治療各論 21. 肩関節痛
4	第2章 治療各論 22. 上肢痛
5	第2章 治療各論 23. 腰下肢痛
6	第2章 治療各論 24. 膝痛
7	第2章 治療各論 スポーツ医学,外傷・障害
8	第2章 治療各論 25. 運動麻痺
9	第2章 治療各論 1. 頭痛
10	第2章 治療各論 2. 顔面痛, 4. 歯痛
11	第2章 治療各論 3. 顔面麻痺
12	第2章 治療各論 8. めまい
13	第2章 治療各論 9. 耳鳴りと難聴
14	第2章 治療各論 5. 眼精疲労
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	臨床鍼灸学 I	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	演習
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	1学年
		実施学期	後期
教員名	與那覇 真樹	教員区分	一般教員

教科書	適宜配布物を用意いたします。	
参考書	「生理学 第3版」	(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
	「はりきゅう理論」	(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
	「臨床医学総論 第2版」	(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
	「鍼灸臨床の科学」	西條一止／熊澤孝朗 監修 (医歯薬出版)
	「自律神経機能検査 第5版」	日本自律神経学会 編 (文光堂)
成績評価	期末筆記試験の点数と提出物により評価(未提出者は筆記試験からー41点)	
留意事項	実験機材の取り扱いと、軽度の身体負荷があるので体調変化に注意して下さい。	

科目の目標	生体への刺激に対する反応の観察や検査機器の取り扱いを理解する。
授業概要	医療用機材などの使用方法を学習し、身体に種々の刺激が加わった際に生じる活動の変化を血液・免疫・循環系、体温・代謝、神経系、内分泌系の知識を用い、解釈・考察していきます。生理学の学習範囲(血液・循環・内分泌・神経など)の復習と追加の学習を行います。

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション
2	生理学分野の学習 1
3	生理学分野の学習 2
4	自律神経機能の観察方法の概要
5	生理学分野の学習 3
6	自律神経の機能の観察 (基礎)
7	生理学分野の学習 4
8	自律神経の機能・生体反応の測定
9	生理学分野の学習 5
10	自律神経の機能・生体反応の測定
11	生理学分野の学習 6
12	自律神経の機能・生体反応の測定
13	生理学分野の学習 7
14	自律神経の機能・生体反応の測定
15	定期試験
16	解答と解説、授業総括

科 目	社会鍼灸学	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	演習
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	3 2
		履修年次	1 年次
		実施学期	後期
教員名	下山 隆朗	教員区分	一般教員

教科書	「社会あはき学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社)
参考書	適宜紹介する
成績評価	定期試験による
留意事項	鍼灸師と社会との関係において問題意識を持つこと

科目の目標	鍼灸師の役割や倫理観を再確認するとともに現代社会の問題点も考えていく
授業概要	鍼灸師として知っておかなければならない歴史や問題点を学ぶとともに、現代を生きる鍼灸師として何が必要なのかを問題定義し、それを研究・発表する

日程

回 数	授業内容
1	鍼灸と社会 1
2	鍼灸と社会 2
3	鍼灸と社会 3
4	鍼灸と社会 4
5	鍼灸と社会 5
6	鍼灸と社会 6
7	鍼灸師を目指すものとして考えること 1
8	鍼灸師を目指すものとして考えること 2
9	鍼灸師を目指すものとして考えること 3
10	鍼灸師と現代社会・医療との関わり 1
11	鍼灸師と現代社会・医療との関わり 2
12	鍼灸師と現代社会・医療との関わり 3
13	鍼灸師と現代社会・医療との関わり 4
14	鍼灸師と現代社会・医療との関わり 5
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説 総説

科 目	臨床評価実習 I	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	3 2
		履修年次	1 年次
		実施学期	後期
教員名	原島 基	教員区分	一般教員

教科書	特になし
参考書	「診察と手技がみえる 1 第2版」 古谷伸之 編集 (メディックメディア) 「リハビリテーション医学 第4版」(公社) 東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
成績評価	実技試験・出席状況（欠席ー6、遅刻・早退ー2）・授業態度（不適切な身だしなみー4）を総合的に評価する。
留意事項	接遇での常識的な言葉遣い（敬語）等は理解しておくこと。 授業に関連する項目の予習・復習（解剖学・生理学・臨床医学総論・リハビリテーション医学）に努めること。

科目の目標	臨床（臨床実習）に臨む際の接遇基礎と基本的知識と技術、鍼灸臨床の場で用いる事が出来る所見や評価項目を習得し、所見や評価項目を用いて患者の病態や経過を推察する能力を身につけ、患者が不快なく施術を受けられる流れをつくるようとする。
授業概要	鍼灸臨床に必要な接遇・診察の知識・技術を習得し、所見や評価項目の意義・方法を理解し学生同士で練習を行う。 各所見や評価項目毎に知識を整理し身体診察の臨床的意義を理解する。

実務経験	鍼灸院で勤務
実務経験と授業の関連	臨床で培った技術を授業に取り入れる。

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション、言葉使いの確認、
2	臨床実習に向けての接遇基礎、タオルワーク、患者誘導
3	バイタルサイン、脈拍・血圧測定(水銀計・デジタル)
4	身体計測(四肢長・周径)、ROM 1
5	ROM 2
6	ROM 3
7	ROM 4
8	施術 1
9	補助業務 2
10	補助業務 3

1 1	ロールプレイング 1
1 2	ロールプレイング 2
1 3	総合復習
1 4	実技試験
1 5	実技試験フィードバックと評価
1 6	まとめ

科 目	臨床経穴実習 I	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	後期
		教員区分	実務教員
教員名	割田 萌		

教科書	「新版 経絡経穴概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社)
参考書	「解剖学 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「カラー版 経穴マップ 第2版」王曉明 著 (医歯薬出版) 「プロメテウス 解剖学アトラス 総論/運動器系」 (医学書院)
成績評価	実技試験、出席、授業態度を総合的に評価する。
留意事項	必ず経穴名と部位の予習をして授業に臨み、復習をすること。 取穴しやすい服装を準備すること。 医療従事者としてふさわしい服装で参加すること(ふさわしくない身だしなみー4点)。 遅刻・早退・欠席をしないこと(欠席ー6点、遅刻・早退ー2点)。

科目の目標	経絡の流注を理解し、経穴の取穴法を習得する。 経穴の部位と局所解剖についても学習し習得する。
授業概要	経絡経穴概論で学習した経穴の取穴を行う。 担当教員により局所解剖と取穴の説明、デモンストレーション、各自で触察・取穴の順で行う。

実務経験	往診にて臨床を行う。
実務経験と授業の関連	臨床で得た触察の技術を授業に還元する。

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション、手の太陰肺経
2	手の陽明大腸経
3	任脈
4	足の陽明胃経
5	足の太陰脾経
6	手の少陰心経・手の太陽小腸経
7	督脈
8	足の太陽膀胱経①
9	足の太陽膀胱経②
10	足の少陰腎経

1 1	手の厥陰心包經
1 2	手の少陽三焦經
1 3	実技試験
1 4	実技試験
1 5	実技試験フィードバック
1 6	総復習

科 目	鍼基礎実習 II	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	後期
教員名	北園 実鈴	教員区分	実務教員

教科書	「はりきゅう実技 第2版<基礎編>」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社)
参考書	「はりきゅう理論」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社) 「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版)
成績評価	実技試験・小テスト・実習態度・出席状況を総合して評価する。
留意事項	実習内容について毎日反復練習に努めること。 医療従事者としてふさわしい服装で参加すること(ふさわしくない身だしなみー4点)。 基礎実習が将来の臨床へつながるので、遅刻、早退、欠席をしないよう体調をしっかりと管理すること(欠席ー6点、遅刻・早退ー2点)。

科目の目標	刺鍼の基本および身体各部への安全な刺鍼法を習得する。
授業概要	刺鍼に必要な基礎知識を学習する。衛生管理(用具・手指などの清潔保持、消毒)、治療過誤の概要を学び安全な刺鍼法を十分に理解する。 局所解剖所見を踏まえ全身の身体各部に安全に刺入できる知識と技術(長さ、太さの異なる鍼を使用)を習得する。

実務経験	鍼灸接骨院で勤務
実務経験と授業の関連	臨床で培った刺鍼技術を授業に取り入れる

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション、大腿部(各自)直刺(銀鍼・ステンレス鍼)
2	身体各部の刺鍼(対人): 大腿 直刺
3	身体各部の刺鍼(対人): 大腿 斜刺
4	身体各部の触診(対人): 腰部・背部のランドマークの確認、タオルワーク
5	身体各部の刺鍼(対人): 腰部 直刺
6	身体各部の刺鍼(対人): 腰部 斜刺
7	十七手技①
8	十七手技②
9	身体各部の刺鍼(対人): 下腿
10	身体各部の刺鍼(対人): 前腕

1 1	身体各部の刺鍼（対人）：後頸部
1 2	身体各部の刺鍼（対人）：腰部
1 3	実技試験
1 4	実技試験
1 5	フィードバック,総合刺鍼
1 6	総合刺鍼

科 目	灸基礎実習 II	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	後期
教員名	割田 萌	教員区分	実務教員

教科書	「はりきゅう実技<基礎編> 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
参考書	「はりきゅう理論」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
成績評価	定期試験、課題提出、出席状況による総合評価
留意事項	火の取り扱いに十分注意し、自宅でも反復練習に努めること。 医療従事者としてふさわしい服装で参加すること（ふさわしくない身だしなみー4点）. 遅刻・欠席をしないこと（欠席ー6点、遅刻ー2点）. 対人施灸では、感受性の差異に留意し、参加にあたっては体調管理に努めること。

科目の目標	灸に関する基礎的な知識、技術を習得し、人体施灸（透熱灸）を安全かつ適切に行える技術と治療家としての態度を身に付ける。
授業概要	灸の基礎知識の習得、透熱灸の反復練習と学生同士での人体施灸を行う。

実務経験	往診にて臨床を行う。
実務経験と授業の関連	臨床で得た触察の技術を授業に還元する。

日程

回 数	授業内容
1	授業の概要・進め方・諸注意の説明、灸基礎実習 I の復習
2	灸の基礎知識、施灸練習（紙上施灸、竹上への艾炷作成）1
3	灸の基礎知識、施灸練習（紙上施灸、竹上への艾炷作成）2
4	灸の基礎知識、施灸練習（紙上施灸、竹上への艾炷作成）3
5	灸の基礎知識、施灸練習（紙上施灸、竹上への艾炷作成）4
6	灸の基礎知識、施灸練習、消毒操作、人体施灸（自身への施灸）1
7	灸の基礎知識、施灸練習、人体施灸（自身への施灸）2
8	灸の基礎知識、施灸練習、人体施灸（自身への施灸）3
9	灸の基礎知識、施灸練習、人体施灸（対人施灸）1
10	灸の基礎知識、施灸練習、人体施灸（対人施灸）2

1 1	灸の基礎知識，施灸練習，人体施灸（対人施灸）3
1 2	灸の基礎知識，施灸練習，人体施灸（対人施灸）4
1 3	実技試験
1 4	実技試験
1 5	試験フィードバック
1 6	総合復習

科 目	医療概論	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	1 6
		履修年次	2 学年
教員名	渡辺 悠美	実施学期	前期

教科書	「医療概論」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版)
参考書	適宜紹介
成績評価	定期試験
留意事項	教科書を毎回持参すること。 期末試験にかかるためだけの勉強としないこと。

科目の目標	医療の変遷を知り、現代の医学と鍼灸との関わりについて自分なりに考える。 現代の医療制度や医療倫理を理解する。
授業概要	医療の変遷を学習し、その全体像を理解する。 国家試験に出題される内容の要点を理解する。

日程

回 数	授業内容
1	第1章 医療概論とは・西洋医学史
2	第1章 西洋医学史
3	第1章 東洋医学史・日本医学史
4	第2章 現代の医学
5	第2章 医療制度
6	第3章 医療倫理
7	定期試験
8	解答解説

科 目	経絡経穴概論III	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教員名	棚田 徹也	教員区分	一般教員

教科書	「新版 経絡経穴概論 第2版」 東洋療法学校協会編（医道の日本社） 「新版 東洋医学概論」 東洋療法学校協会編（医道の日本社）
参考書	「中医薬大学全国共通教材 全訳 経絡学」李鼎 主編・浅野周 訳（たにぐち書店） 他、授業内で随時紹介する。
成績評価	定期試験で60%に満たない場合再試験となる。
留意事項	実技等他教科においても経絡・経穴との関連を常に意識されたい。

科目の目標	各経脈の流注と病証・要穴について理解習得する。 要穴の種類毎にその特徴・用法等を理解習得する。 経外奇穴について理解習得する。
授業概要	各経脈の流注と病証について学び・理解する。 要穴の種類と法則・使用法について学び理解する。 主要な経外奇穴の部位と適応について習得する。

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション、基礎の確認
2	正経十二脈の流注と病証、要穴の概要
3	正経十二脈の流注と病証・要穴①
4	正経十二脈の流注と病証・要穴②
5	正経十二脈の流注と病証・要穴③
6	正経十二脈の流注と病証・要穴④
7	正経十二脈の流注と病証・要穴⑤
8	正経十二脈の流注と病証・要穴⑥
9	正経十二脈の流注と病証・要穴⑦
10	奇経八脈の流注と病証・経穴①、要穴の用法
11	奇経八脈の流注と病証・経穴②、経外奇穴①
12	奇経八脈の流注と病証・経穴③、経外奇穴②
13	奇経八脈の流注と病証・経穴④、経外奇穴③
14	総復習
15	定期試験
16	解説・解答

科 目	東洋医学臨床論 I	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教員名	石田 大弥	教員区分	一般教員

教科書	「東洋医学臨床論(はりきゅう編)」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「新版 東洋医学概論」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「新版 経絡經穴概論 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
参考書	プリントを配布
成績評価	定期試験
留意事項	第1~4回の授業は「新版 経絡經穴概論 第2版」をお持ちください

科目の目標	各愁訴・疾患における東洋医学的な病因病機を理解し、鍼灸処方を組み立てられること
授業概要	東洋医学的な病因病機・処方を座学形式で学ぶ

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション
2	東洋医学概論の復習
3	穴性学の基礎 1
4	穴性学の基礎 2
5	穴性学の基礎 3
6	頭痛
7	顔面痛/歯痛
8	顔面麻痺
9	鼻閉・鼻汁
10	眼精疲労/脱毛症/めまい
11	耳鳴り・難聴
12	咳嗽/喘息
13	胸痛/腹痛
14	処方練習
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	現代医学臨床論Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教員名	太田 和幸	教員区分	一般教員

教科書	「東洋医学臨床論 〈はりきゅう編〉」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
	「新版 東洋医学概論」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
	「新版 経絡経穴概論 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
	「臨床医学各論 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
参考書	「鍼灸療法技術ガイド I・II」 (文光堂) 「病気がみえるシリーズ」 (メディックメディア)
成績評価	定期試験
留意事項	臨床でも大切な内容であり、かつ範囲が広い内容であるため、特に復習に努めること。

科目の目標	症状から疾患を鑑別し治療に結びつける能力を養い、特に注意を要する疾患に対しリスク管理をできるようにする。また、適応症と鑑別が行えることを目標とする。さらに各疾患について治療のみならず的確な生活指導を実施でき、臨床の幅を広げることを目標とする。
授業概要	症状・疾患ごとに重要なところを解説し、臨床で実践できるように講義する。

日程

回 数	授業内容
1	呼吸器系1 (鼻閉・鼻汁)
2	呼吸器系2 (咳嗽、喘息)
3	疼痛 (胸痛、腹痛)
4	消化器系1 (恶心・嘔吐、便秘・下痢)
5	消化器系2 (食欲不振、肥満)
6	婦人科系 (月経異常)
7	泌尿器科系1 (排尿障害)
8	泌尿器科系2 (インポテンツ)
9	バイタル1 (高血圧症、低血圧症)
10	バイタル2 (発熱、のぼせと冷え)
11	不眠、疲労と倦怠
12	皮膚科系 (脱毛症、発疹)
13	老年医学、小児の症状
14	復習
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	臨床評価実習 II	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教員名	下山 隆朗	教員区分	実務教員

教科書	特になし
参考書	「写真で学ぶ整形外科テスト法」 ジョセフ・シプリアーノ著 (医道の日本社) 「図解 整形外科学検査法」 新関真人著 (医道の日本社)
成績評価	実技試験に欠席点(欠席-6点、遅刻・早退-2点)、授業態度(不適切な身だしなみ-4点)を含めた評価とする。
留意事項	検査法は相手の身体に負荷や痛みを加えるものなので、真剣に取り組むこと。 部位に応じて、ハーフパンツなど動きやすい服装で臨むこと。 解剖学・運動学の基礎知識が必須のため、必ず復習をしておくこと。

科目の目標	臨床の場において、鍼灸師が行う事が出来る検査の方法を覚える。 実際の部位に適切な負荷をかけられる技術を身に付け、3学期の臨床実習につなげる。
授業概要	毎時間、グループで授業を行う。 実技練習は、フィードバック表を使用しながら行う。 部位ごとに課題を渡し、グループで次回の授業までに予習を兼ねて課題をまとめる。 授業の際に、代表1グループが発表し簡単にディスカッションを行う。

実務経験	付属鍼灸院で臨床に携わる
実務経験と授業の関連	臨床で行っている評価方法を授業に取り入れる

日程

回 数	授業内容
1	頸部の診察・徒手検査・評価方法
2	頸部と上肢の診察・徒手検査・評価方法
3	肩関節の診察・徒手検査・評価方法①
4	肩関節の診察・徒手検査・評価方法②
5	腰部の診察・徒手検査・評価方法
6	腰下肢の診察・徒手検査・評価方法
7	股関節の診察・徒手検査・評価方法
8	肘関節の診察・徒手検査・評価方法
9	膝関節の診察・徒手検査・評価方法①
10	膝関節の診察・徒手検査・評価方法②

1 1	足関節の診察・徒手検査・評価方法
1 2	総合復習
1 3	実技試験
1 4	実技試験
1 5	試験のフィードバック
1 6	総合問題・実践練習

科 目	臨床経穴実習 II	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	3 2
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教員名	割田 萌	教員区分	実務教員

教科書	「新版 経絡経穴概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社)
参考書	「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系」(医学書院) 「カラー版 経穴マップ 第2版」王 曜明(医歯薬出版株式会社)
成績評価	実技試験、出席点(1回欠席-6点・遅刻・早退-2点)、授業態度(ふさわしくない身だしなみ1回-4点)を総合的に評価する。 総合評価が60点未満の者は再試験の評価とする。
留意事項	必ず経穴名と部位の予習をして授業に臨み、復習をすること。 十四經については、所属の経穴名と部位を復習しておくこと。 シラバスを参照し、取穴し易い服装で臨むこと。

科目の目標	経絡の流注を理解し、経穴の取穴法を習得する。 経穴の部位と局所解剖についても学習し習得する。
授業概要	四肢の経穴を中心とした取穴を行う。 担当教員により局所解剖と取穴の説明、デモンストレーション、各自で触察・取穴の順で行う。

実務経験	往診にて臨床を行う。
実務経験と授業の関連	臨床で得た触察の技術を授業に還元する。

日程

回 数	授業内容
1	足の少陽胆経①
2	足の少陽胆経②、足の厥陰肝経
3	要穴 1
4	要穴 2
5	要穴 3
6	要穴 4
7	要穴 5
8	要穴 6
9	要穴 7
10	要穴 8

1 1	要穴9
1 2	要穴10
1 3	実技試験①
1 4	実技試験②
1 5	実技試験フィードバック
1 6	総復習

科 目	触診触擦実習 I	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	3 2
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教員名	浅野 貴之	教員区分	実務教員

教科書	「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「東洋医学臨床論 <はりきゅう編>」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社)
参考書	「プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論・運動器系」(医学書院)
成績評価	実技試験、出席点(1回欠席-6点・1回遅刻・早退-2点)、授業態度(ふさわしくない身だしなみ1回-4点)を総合的に評価する。 実技試験点が60点未満の者、総合点が60点未満の者は再試験の対象とする。
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・体調管理(睡眠、食事など)に努め、実習時に体調不良の場合は教員まで申し出ること。 ・1回完結の授業の為、できるだけ休まないこと。 ・授業中にできるだけ多くの人の体を借りて、経験を積むことでどんな体格でも触察できるようすること。 ・臨床実習を意識し、言葉使いや動作に細心の注意を払うこと。 ・触察部位の露出しやすい服装を心がけること。 ・触察部位の構造(骨、筋、靭帯、神経、血管)を必ず予習してくること。

科目の目標	「現代医学臨床論 I」で学習した各部位における症候に対し、障害を起こしやすい組織(筋・神経・関節など)を中心に触察および患者を想定した、触診(触り方)を習得する。さらに、男女や筋の発達度合い、脂肪の量による違いを経験する。
授業概要	局所解剖に基づいて、各症候で障害を起こしやすい組織の触察・触診見本を提示し、感触を経験した後に、各ペアで触察・触診をおこなう。

実務経験	鍼灸院を開業
実務経験と授業の関連	臨床で培った触診の技術を授業に取り入れる

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション・基本的な触診方法
2	通電機器説明および物理療法の禁忌・適応について
3	呼吸器疾患(鼻症状)の診察および触擦、後頸部の筋
4	呼吸器疾患(下気道症状)診察および触擦、T1-T7 脊柱起立筋
5	肋間神経痛に関わる診察および棘突起の触察、肋骨、T1-T7 棘突起、横突棘筋群
6	腹部の診察（打診・触診）およびT6-T11 脊柱起立筋の反応点の触擦
7	腹部の診察（聴診）およびT12-L4 脊柱起立筋の反応点の触擦
8	腹部の触診（骨盤内臓）と八髎穴の触擦
9	排尿障害に関わる組織の診察および腹壁筋の触擦
10	インポテンツ関わる組織の診察および触擦
11	血圧異常に対する診察および頸動脈の触擦
12	自律神経系の診察および触擦
13	膠原病の診察および触擦
14	定期試験
15	フィードバック
16	総復習

科 目	鍼灸用実習 I	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	3 2
		履修年次	2 年次
		実施学期	前期
教員名	浅野 貴之	教員区分	実務教員

教科書	「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「東洋医学臨床論 <はりきゅう編>」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社)
参考書	「プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論・運動器系」(医学書院)
成績評価	実技試験、出席点(1回欠席-6点・1回遅刻・早退-2点)、授業態度(ふさわしくない身だしなみ1回-4点)を総合的に評価する。
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・体調管理(睡眠、食事など)に努め、実習時に体調不良の場合は教員まで申し出ること。 ・1回完結の授業の為、できるだけ休まないこと。 ・<u>授業中に</u>できるだけ多くの人の体を借りて、経験を積むことでどんな体格でも刺鍼できるようにすること。 ・臨床実習を意識し、言葉使いや動作に細心の注意を払うこと。 ・刺鍼部位の露出しやすい服装を心がけること。 ・刺鍼部位の構造(骨、筋、靭帯、神経、血管)を必ず予習してくること。

科目の目標	「現代医学臨床論 I」で学習した各部位における症候に対し、障害を起こしやすい組織(筋・神経・関節など)を中心に刺鍼方法を習得する。 さらに、男女や筋の発達度合い、脂肪の量による違いを経験する。
授業概要	局所解剖に基づいて、各症候で障害を起こしやすい組織の刺鍼見本を提示し、鍼尖の感触を経験した後に、各ペアで刺鍼練習をおこなう。

実務経験	鍼灸院を開業
実務経験と授業の関連	臨床で培った鍼灸の技術を授業に取り入れる

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション・基本的な触診方法
2	通電機器説明および物理療法の禁忌・適応について
3	呼吸器疾患(鼻症状)に対する刺鍼
4	呼吸器疾患(下気道症状)に対する刺鍼
5	肋間神経痛に対する刺鍼
6	上腹部痛に対する刺鍼
7	下腹部痛に対する刺鍼
8	婦人科疾患に対する刺鍼
9	排尿障害に対する刺鍼
10	インポテンツに対する刺鍼
11	血圧異常に対する刺鍼
12	自律神経系に対する刺鍼
13	膠原病に対する刺鍼
14	定期試験
15	フィードバック
16	総復習

科 目	臨床実習	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	
		履修区分	
		単位数	2
		時間数	90
		履修年次	2年次
教員名	鍼灸学科教員	実施学期	前・後期
		教員区分	実務教員

教科書	特になし
参考書	特になし
成績評価	評価表に基づく
留意事項	臨床の場にふさわしい服装、態度で臨むこと

科目の目標	実際の臨床現場をしっかりと把握、理解し、適切な行動、患者対応ができる
授業概要	鍼灸臨床に必要な患者対応の知識、技術を学習する 臨床実習上で必要な各種の動作を学ぶ

実務経験	新宿医療専門学校付属左門町鍼灸院にて勤務
実務経験と授業の関連	臨床現場で経験した知識、技術を授業に取り入れる

日程【前期】

回 数	授業内容
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	・オリエンテーション ・衛生管理、施術所内の環境把握、後片付け（原状復帰）、言葉遣い 接遇、カルテ内容の把握、ワゴン準備、施術ブース内の環境把握 鍼出し、リスク管理、患者誘導、タオルワーク、血圧測定、 抜鍼動作、廃棄物の処理、温灸の使い方、グループによるロールプレイ
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科 目	東洋医学臨床論Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	後期
		教員区分	一般教員
教員名	石田 大弥		

教科書	「東洋医学臨床論(はりきゅう編)」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社) 「新版 東洋医学概論」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社) 「新版 経絡経穴概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社)
参考書	プリントを配布
成績評価	定期試験
留意事項	要穴表は必ず覚えて授業に臨んで下さい

科目の目標	各愁訴・疾患における東洋医学的な病因病機を理解し、鍼灸処方を組み立てられること。
授業概要	東洋医学的な病因病機・処方を座学形式で学ぶ

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション/腹痛
2	恶心と嘔吐
3	月経異常
4	排尿障害/インポテンツ
5	肩こり/頸肩腕痛/肩関節痛
6	腰下肢痛
7	膝痛
8	運動麻痺
9	高血圧/低血圧
10	食欲不振/肥満
11	発熱/のぼせと冷え
12	不眠/疲労と倦怠感
13	発疹/小児の症状
14	古代刺法
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	臨床鍼灸学Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	演習
		単位数	1
		時間数	3 2
		履修年次	2年次
		実施学期	後期
		教員区分	一般教員
教員名	浅野 貴之・北園 実鈴		

浅野 貴之

教科書	「新版 東洋医学概論」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
参考書	「鍼灸学 基礎編」日中共同編集 (東洋学術出版社)
成績評価	定期試験にて評価する。 50点満点とし、30点未満の場合、再試験とする。 科目の評価は、北園先生の期末試験の得点との合算とする。
留意事項	毎時限、内容が完結するため欠席をしないこと。過去の東洋医学の講義の上に知識を組み上げていくため、過去の資料やノートを見直しておくこと。また、確認が必要であれば資料やノートを持って受講すること。

科目的目標	1. 臓腑弁証において、各臓腑の病証を書き出すことができる。 2. 臓腑弁証と病因論（「新版 東洋医学概論 第2章」にて学習済）を結びつけ、症状を推測できる。 3. サブテキスト内のA指定（最重要項目）を理解し、それを書き出すことができる。 4. 「新版 東洋医学概論」第2章～第4章の重要事項を結びつけて説明することができる。
授業概要	1. 授業はプリント（サブテキスト）を用い、PCにてプレゼンテーション形式で説明する。 2. 必要に応じて、板書しながら説明していく。 3. 過去に行われた講義と弁証との関連付けをしながら講義を進めていく。

北園 実鈴

教科書	特になし
参考書	「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版社) 「生理学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版社) 「臨床医学各論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版社) 「臨床不妊症学 第3版」(中外医学社) 「高齢不妊診療ハンドブック」(医学書院) 「月経らくらく講座」(文光堂)
成績評価	定期試験にて評価する。50点満点とし、30点未満の場合、再試験とする。 科目の評価は、浅野先生の期末試験の得点との合算とする。
留意事項	各部位の構造と機能の予習を行なって授業に望むこと。

科目的目標	鍼灸臨床で遭遇しやすい整形外科疾患や内科疾患の病態と鍼灸治療について学ぶ。
授業概要	生殖器、肩、腰、などの局所解剖を理解する。 疾患の病態生理を学ぶことによって鍼灸治療の方法を学ぶ。

日程

回 数	授業内容	
1	東洋医学の捉え方① 臓腑学説と気血津液学説	(浅野)
2	婦人科疾患の病態と治療方針①	(北園)
3	東洋医学の捉え方② 病因論	(浅野)
4	婦人科疾患の病態と治療方針②	(北園)
5	東洋医学の捉え方③ 弁証論治、弁証の進め方	(浅野)
6	婦人科疾患の病態と治療方針③	(北園)
7	東洋医学の捉え方④ 八綱弁証	(浅野)
8	腰痛疾患の病態と鍼灸治療①	(北園)
9	東洋医学の捉え方⑤ 気血津液弁証	(浅野)
10	腰痛疾患の病態と治療方針②	(北園)
11	東洋医学の捉え方⑥ 臓腑弁証	(浅野)
12	上肢の疾患の病態と治療方針①	(北園)
13	東洋医学の捉え方⑦ 臓腑兼病病証	(浅野)
14	上肢の疾患の病態と治療方針②	(北園)
15	定期試験	(浅野・北園)
16	まとめ	(浅野・北園)

科 目	薬学概論	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	後期
教員名	根本 香代・水沼 未雅	教員区分	一般教員

根本 香代

教科書	特になし
参考書	特になし
成績評価	定期試験にて評価する。 50点満点とし、水沼先生の試験の得点との合算とする。
留意事項	基礎となる生理学や東洋医学を復習しておくこと。

科目の目標	生理学・東洋医学臨床論等の知識を活かし、鎮痛薬など一般的に服用されている薬を中心とした薬理や漢方薬の基礎を理解して患者とのコミュニケーションの幅を広げることを目的とする。患者が処方されている薬の概要を把握し、その効果をより高める治療ができる臨床家を育成する。
授業概要	現代的な薬学では症状別に、漢薬では証や生薬別に知識を深めていく。

水沼 未雅

教科書	特になし
参考書	女性診療で使えるヌーベル漢方処方ノート（メディカ出版）
成績評価	定期試験にて評価する。 50点満点とし、根本先生の試験の得点との合算とする。
留意事項	特になし

科目の目標	生理学・東洋医学臨床論等の知識を活かし、鎮痛薬など一般的に服用されている薬を中心とした薬理や漢方薬の基礎を理解して患者とのコミュニケーションの幅を広げることを目的とする。患者が処方されている薬の概要を把握し、その効果をより高める治療ができる臨床家を育成する。
授業概要	現代的な薬学では症状別に、漢薬では証や生薬別に知識を深めていく。

日程

回 数	授業内容	
1	薬理学の基礎知識	(根本)
2	解熱・鎮痛薬	(根本)
3	抗感染症薬	(根本)
4	抗アレルギー薬	(根本)
5	循環器系に作用する薬物	(根本)
6	消化器系に作用する薬物	(根本)
7	神経系に作用する薬物	(根本)
8	確認試験	(根本)
9	なぜ鍼灸師が漢方について知っておく必要があるのか?	(水沼)
10	漢方の基礎理論	(水沼)
11	不妊・妊活のための漢方治療	(水沼)
12	冷え・月経トラブル・季節のトラブル、日常使用できる漢方薬	(水沼)
13	アンチエイジング・更年期、高齢の方のための漢方	(水沼)
14	美容漢方	(水沼)
15	定期試験	(水沼)
16	フィードバック	(水沼)

科 目	治効理論	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	後期
教員名	與那覇 真樹	教員区分	一般教員

教科書	配布資料、「はりきゅう理論」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社)
参考書	「はりきゅう実技<基礎編>」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社) 「生理学 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「病理学概論 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版)
成績評価	定期試験
留意事項	鍼灸領域の学術論文を基とした学習範囲なので、基礎医学(生理学領域のうち、とくに神経系)の再確認をしておく事。

科目の目標	かつて、鍼灸は科学的根拠に乏しい治療と考えられてきたが、近年、科学的視点による実験から得られた知見より、治効理論が構築されてきた。 また、科学技術の進歩により細胞内外での情報伝達や化学反応が可視化されたことで、鍼灸領域においても新たな観点が加わりつつある。 本科目は、鍼灸治療に関わる基礎知識・作用機序を学習し、臨床において根拠ある施術ができるようになることを目標とする。
授業概要	鍼灸が物理的に影響を及ぼす皮膚組織・筋組織・結合組織の現代医学的な理解を進める。 組織損傷時にみられる変化を学習し、鍼灸施術で生じる組織変化への理解を進める。 鍼灸刺激によって生じる神経系・内分泌系・免疫系の反応を学習する。

日程

回 数	授業内容
1	第9章：鍼灸治効の基礎1…痛みの定義と分類
2	第9章：鍼灸治効の基礎2…神経生理学1(神経系の基礎)
3	第9章：鍼灸治効の基礎3…神経生理学2(体性感覚の分類と性質)
4	第9章：鍼灸治効の基礎4…鍼鎮痛1
5	第9章：鍼灸治効の基礎5…鍼鎮痛2
6	第9章：鍼灸治効の基礎6…鍼鎮痛3
7	第9章：鍼灸治効の基礎7…鍼灸施術の刺激と反応
8	第10章：鍼灸療法の一般治効理論1…自律神経生理学
9	第10章：鍼灸療法の一般治効理論2…自律神経反射
10	第10章：鍼灸療法の一般治効理論3…鍼灸施術による自律神経反応

1 1	第10章：鍼灸療法の一般治効理論4…鍼灸施術による生体防御機構の反応
1 2	第10章：鍼灸療法の一般治効理論5…鍼灸施術と神経・内分泌・免疫系の相互作用
1 3	第11章：関連学説1
1 4	第11章：関連学説2
1 5	定期試験
1 6	解答と解説、授業総括

科 目	触診触察実習 II	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	後期
教員名	原島 基	教員区分	実務教員

教科書	「解剖学 第2版」 「生理学 第2版」 「臨床医学総論 第2版」 「東洋医学臨床論 へりきゅう編」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社)	(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社)
参考書	「プロメテウス解剖学 アトラス解剖学総論・運動器系」(医学書院)	
成績評価	実技試験、出席点(1回欠席-6点・1回遅刻・早退-2点)、授業態度(ふさわしくない身だしなみ1回-4点)を総合的に評価する。 実技試験点が60点未満の者、総合点が60点未満の者は再試験の対象とする。	
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・体調管理(睡眠、食事など)に努め、実習時に体調不良の場合は教員まで申し出ること。 ・1回完結の授業の為、できるだけ休まないこと。 ・授業中にできるだけ多くの人の体を借りて、経験を積むことでどんな体格でも触察できるようすること。 ・臨床実習を意識し、言葉使いや動作に細心の注意を払うこと。 ・触察部位の露出しやすい服装を心がけること。 ・触察部位の構造(骨、筋、靭帯、神経、血管)を必ず予習してくること。 	

科目の目標	「現代医学臨床論Ⅰ・Ⅱ」で学習した各部位における症候に対し、障害を起こしやすい組織(筋・神経・関節など)を中心に触察および患者を想定した、触診(触り方)を習得する。さらに、男女や筋の発達度合い、脂肪の量による違いを経験する。
授業概要	局所解剖に基づいて、各症候で障害を起こしやすい組織の触察・触診見本を提示し、感触を経験した後に、各ペアで触察・触診をおこなう。

実務経験	鍼灸院にて勤務
実務経験と授業の関連	臨床で培った触診の技術を授業に取り入れる

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション・前期内容の復習
2	顔面神経麻痺に関わる組織の触診および触擦(現代医学臨床論Ⅰの講義内容参照)
3	鼻閉・鼻汁に関わる組織の触診および触擦(現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照)
4	咳嗽・喘息に関わる組織の触診および触擦(現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照)
5	消化器に関わる組織の触診および触擦1(現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照)
6	消化器に関わる組織の触診および触擦2(現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照)

7	婦人科に関わる組織の触診および触擦（現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照）
8	泌尿器に関わる組織の触診および触擦（現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照）
9	血圧異常に関わる組織の触診および触察（現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照）
10	不眠・疲労・倦怠感に関わる組織の触診および触擦（現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照）
11	老年医学に関わる組織の触診および触擦（現代医学臨床論Ⅰの講義内容参照）
12	眼精疲労に関わる組織への触察および触診（現代医学臨床論Ⅰの講義内容参照）
13	スポーツ医学に関わる組織への触察および触診（現代医学臨床論Ⅰの講義内容参照）
14	定期試験
15	フィードバック
16	総復習

科 目	灸応用実習	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	3 2
		履修年次	2年次
		実施学期	後期
教員名	内藤 玄吾	教員区分	実務教員

教科書	「はりきゅう実技<基礎編>」(公社) 東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
参考書	特になし
成績評価	実技試験・出席状況・身だしなみを総合して評価する。
留意事項	医療従事者としてふさわしい服装で参加すること（ふさわしくない身だしなみー4点）. 遅刻・欠席をしないこと（欠席ー6点, 遅刻ー2点）. 感受性の差異に留意し, 参加にあたっては体調管理に努めること。 火気の取り扱いに注意し, 適切に器具を扱うこと. 指示以外のこととは行わないこと。

科目の目標	灸の基礎実習で学習した事を基に, 基礎技術力のさらなる向上を目指す。 臨床において使用頻度の高い身体部位に対する施術方法を交え, 担当教員により各部位のデモンストレーションを行い指導する。
授業概要	様々な灸法を学び, 治療に使用することのできる技術を習得する。

実務経験	付属施術所で施術
実務経験と授業の関連	臨床で培った技術を授業に取り入れる

日程

回 数	授業内容
1	ガイダンス・紙上施灸
2	対人施灸（透熱灸 復習）
3	対人施灸（温筒灸）
4	対人施灸（知熱灸）
5	対人施灸（隔物灸）
6	対人施灸（棒灸・箱灸）
7	対人施灸（紫雲膏灸）
8	臨床推論・対人施灸（腰部への灸1）
9	対人施灸（腰部への灸2）
10	対人施灸（腹部への灸）

1 1	対人施灸（肩背部への灸）
1 2	対人施灸（四肢への灸）
1 3	定期試験
1 4	定期試験
1 5	フィードバック・総復習
1 6	総復習

科 目	鍼灸応用実習 II	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	後期
教員名	原島 基	教員区分	実務教員

教科書	「解剖学 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「生理学 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「臨床医学総論 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「東洋医学臨床論 <はりきゅう編>」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
参考書	「プロメテウス解剖学 アトラス解剖学総論・運動器系」 (医学書院)
成績評価	実技試験、出席点(1回欠席-6点・1回遅刻・早退-2点)、授業態度(ふさわしくない身だしなみ1回-4点)を総合的に評価する。
留意事項	・体調管理(睡眠、食事など)に努め、実習時に体調不良の場合は教員まで申し出ること。 ・1回完結の授業の為、できるだけ休まないこと。 ・授業中にできるだけ多くの人の体を借りて、経験を積むことでどんな体格でも刺鍼できるようにすること。 ・臨床実習を意識し、言葉使いや動作に細心の注意を払うこと。 ・刺鍼部位の露出しやすい服装を心がけること。 ・刺鍼部位の構造(骨、筋、韌帯、神経、血管)を必ず予習してくること。

科目の目標	「現代医学臨床論Ⅰ・Ⅱ」で学習した各部位における症候に対し、障害を起こしやすい組織(筋・神経・関節など)を中心に刺鍼方法を習得する。 さらに、男女や筋の発達度合い、脂肪の量による違いを経験する。
授業概要	局所解剖に基づいて、各症候で障害を起こしやすい組織の刺鍼見本を提示し、鍼尖の感触を経験した後に、各ペアで刺鍼練習をおこなう。

実務経験	鍼灸院にて勤務
実務経験と授業の関連	臨床で培った鍼灸の技術を授業に取り入れる

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション・前期内容の復習
2	顔面神経麻痺に関わる組織の刺鍼(現代医学臨床論Ⅰの講義内容参照)
3	鼻閉・鼻汁に関わる組織の刺鍼(現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照)
4	咳嗽・喘息に関わる組織の刺鍼(現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照)
5	消化器疾患に関わる組織の刺鍼1(現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照)
6	消化器疾患に関わる組織の刺鍼2(現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照)
7	婦人科疾患に関わる組織の刺鍼(現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照)
8	泌尿器疾患に関わる組織の刺鍼(現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照)

9	血圧異常に関わる組織への刺鍼（現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照）
10	自律神経調整に関わる組織への刺鍼（現代医学臨床論Ⅱの講義内容参照）
11	老年医学に関わる組織へ刺鍼（現代医学臨床論Ⅰの講義内容参照）
12	眼精疲労に関わる組織への刺鍼（現代医学臨床論Ⅰの講義内容参照）
13	スポーツ医学に関わる組織へ刺鍼（現代医学臨床論Ⅰの講義内容参照）
14	定期試験
15	フィードバック
16	総復習

科 目	総合鍼灸実習	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	3 2
		履修年次	2年次
		実施学期	後期
教員名	(美容鍼) 北園 実鈴, (岡本 真理) (スポーツ鍼) 島田 正寿	教員区分	実務教員

教科書	特になし
参考書	適宜授業内で紹介する。
成績評価	美容鍼の評価、スポーツ鍼の評価をそれぞれ50点満点としてその合算(100点満点)を総合評価点とする。
留意事項	応用実技なので、基礎鍼灸技術を反復練習し授業に臨むこと。

科目の目標	疾患の治療だけでなく、様々なニーズに対応する鍼灸施術の習得を目的とする。美容鍼やスポーツ外傷の予防・ケアなど、時代背景に見合った幅広い臨床家を育成する。
授業概要	美容を目的としたフェイスクアや、各競技で障害を起こしやすい部位や、臨床で求められる技術を練習しながら理論とともに取得する。

実務経験	北園 実鈴：付属施術所で施術 島田 正寿：鍼灸院を開業
実務経験と授業の関連	臨床で培った技術を授業に取り入れる。

日程

回 数	授業内容	
1	美容鍼のガイダンス 皮膚の構造	(北園)
2	表情筋ならびに咀嚼筋の刺鍼	(北園)
3	肩背部のケアと顔面部への症状別刺鍼Ⅰ	(北園)
4	肩背部のケアと顔面部への症状別刺鍼Ⅱ	(北園)
5	肩背部のケアと顔面部への症状別刺鍼Ⅲ	(北園)
6	肩背部のケアと顔面部への症状別刺鍼Ⅳ	(北園)
7	立体造顔美容に基づいた実技試験	(北園)
8	総括と総評 上級のデモンストレーション	(北園)

9	スポーツにおける上半身(首、肩)の障害と治療	(島田)
10	スポーツにおける上半身(背部)の障害と治療	(島田)
11	スポーツにおける上半身(上肢)の障害と治療	(島田)
12	スポーツにおける下半身(腰部)の障害と治療	(島田)
13	スポーツにおける下半身(鼠蹊部)の障害と治療	(島田)
14	スポーツにおける下半身(下肢)の障害と治療	(島田)
15	実技試験	(島田)
16	成績評価、フィードバック	(島田)

科 目	解剖学VII	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	3学年
		実施学期	前期
教員名	山口 智也	教員区分	一般教員

教科書	配布プリント
参考書	「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「生理学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版)
成績評価	定期試験
留意事項	欠席をしないこと。 復習を必ず行い、記憶すること。

科目の目標	総合的におこない基礎力と応用力を固め、考える力を養う。
授業概要	解剖学を中心に総合的に行う。

日程

回 数	授業内容
1	解剖学総復習1
2	解剖学総復習2
3	解剖学総復習3
4	解剖学総復習4
5	解剖学総復習5
6	解剖学総復習6
7	解剖学総復習7
8	解剖学総復習8
9	解剖学総復習9
10	解剖学総復習10
11	解剖学総復習11
12	解剖学総復習12
13	解剖学総復習13
14	解剖学総復習14
15	定期試験
16	解答と解説、授業総括

科 目	臨床医学総合論	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	3学年
		実施学期	前期
教員名	金子 尚史	教員区分	一般教員

教科書	「臨床医学総論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 配布プリント
参考書	「臨床医学各論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「病理学概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「東洋医学臨床論」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社) 「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「生理学 第3版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版)
成績評価	定期試験
留意事項	欠席をしないこと。 復習を必ず行い、記憶すること。

科目の目標	総合的に考える力を養い、応用力をつける。
授業概要	臨床医学総論を中心に総合的に行う。

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション、臨床医学総合論①
2	臨床医学総合論②
3	臨床医学総合論③
4	臨床医学総合論④
5	臨床医学総合論⑤
6	臨床医学総合論⑥
7	臨床医学総合論⑦
8	臨床医学総合論⑧
9	臨床医学総合論⑨
10	臨床医学総合論⑩
11	臨床医学総合論⑪
12	臨床医学総合論⑫
13	臨床医学総合論⑬
14	臨床医学総合論⑭
15	定期試験
16	解答と解説、授業総括

科 目	経絡経穴概論IV	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	3学年
		実施学期	前期
教員名	北園 実鈴	教員区分	一般教員

教科書	「新版 経絡経穴概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社) 適宜プリントを配布
参考書	「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「東洋医学臨床論<はりきゅう編>」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社)
成績評価	定期試験8割、暗唱2割(指定された期日までに行うこと)による総合評価 定期試験もしくは総合評価が6割未満の者は再試験とする。
留意事項	十四經について所属する経穴名が暗唱できること。 欠席をしないこと。 予習・復習を必ず行い、記憶すること。 鍼灸師として必要な経穴の知識を確認しておくこと。

科目の目標	経絡経穴概論の基礎力を固め、考える力を養う。
授業概要	経絡経穴概論の内容を総合的に行う。

日程

回 数	授業内容
1	十四經書き取り①
2	十四經書き取り②
3	流注・骨度法
4	取穴部位・要穴①
5	取穴部位・要穴②
6	取穴部位・要穴③
7	取穴部位・要穴④
8	取穴部位・要穴⑤
9	取穴部位・要穴⑥
10	取穴部位・要穴⑦
11	取穴部位・要穴⑧
12	奇經・奇穴など
13	頸部・顔面・頭部:取穴部位
14	取穴部位のまとめ
15	定期試験
16	解答と解説、授業総括

科 目	東洋医学概論III	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	3 2
		履修年次	3学年
		実施学期	前期
教員名	黒岩 太	教員区分	一般教員

教科書	「新版 東洋医学概論」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社)
参考書	「東洋医学臨床論くはりきゅう編」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社) 「新版 経絡経穴概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社)
成績評価	定期試験
留意事項	配布する資料を必ず持参すること。必ず復習を行うこと。

科目の目標	東洋医学概の知識と応用力の習得を目標とする。
授業概要	東洋医学概論 I、II の復習を行う。

日程

回 数	授業内容
1	ガイダンス 陰陽・五行論
2	精・氣・血・津液と神の生理・病理
3	八綱弁証
4	肝・胆の生理・病理
5	心・小腸の生理・病理
6	脾・胃の生理・病理
7	肺・大腸の生理・病理
8	腎・膀胱の生理・病理
9	経脈病証
10	東洋医学的診察法と証の立て方 (難經六十九難等)
11	東洋医学的診察法と証の立て方 (鍼灸の補瀉・古代刺法等)
12	東洋医学的診察法と証の立て方 (その他)
13	総復習①
14	総復習②
15	定期試験
16	解答・解説

科 目	臨床鍼灸学III	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	演習
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	3学年
教員名	本多 淳	実施学期	前期
		教員区分	実務教員

教科書	特になし
参考書	各授業内で適宜紹介する
成績評価	定期試験にて評価する。
留意事項	1テーマごとに連続性をもって講義を行うので、欠席をしないようにすること。

科目の目標	様々な鍼灸治療の方法に触れ、鍼灸師としての知見、技術を深める。
授業概要	それぞれの業界で活躍する先生方をゲストにお呼びし、授業を行う。

実務経験	付属鍼灸院で施術
実務経験と授業の関連	鍼灸臨床で得た知識を授業へ活かす。

日程

回 数	授業内容
1	積聚治療①
2	積聚治療②
3	積聚治療③
4	経絡リンパ治療①
5	経絡リンパ治療②
6	経絡リンパ治療③
7	中医学治療①
8	中医学治療②
9	中医学治療③
10	現代医学治療①
11	現代医学治療②
12	現代医学治療③
13	現代医学治療④
14	定期試験
15	フィードバック
16	総復習

科 目	臨床応用実習 I	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	3学年
		実施学期	前期
教員名	金子 尚史	教員区分	実務教員

教科書	特になし。テーマに沿いテキストにて配布。
参考書	「解剖学 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「東洋医学臨床論くはりきゅう編」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「新版 経絡経穴概論 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「プロメテウス 解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系」 坂井建雄 監訳 (医学書院) 「ネットラー 解剖学アトラス」 F.H. Netter 著 (南江堂) 「クリニカルマッサージ」 James H. Clay 著 (医道の日本社)
成績評価	出席 (1回欠席 - 6点・1回遅刻 - 2点)、相応しくない身だしなみ (-4点)、授業態度、実技試験を総合的に評価する。
留意事項	体調管理 (睡眠、食事など) に努め、実習時に体調不良の場合は教員まで申し出ること。 1回完結の授業であるため、できるだけ欠席しないこと。 実習中はリスク管理に努め、無理な刺鍼は絶対にしないこと。 常に臨床を意識し、言葉使いや動作に細心の注意を払うこと。 刺鍼部位の露出しやすい服装を心がけること。 刺鍼部位の構造(骨、筋、靭帯、神経、血管)を必ず予習してくること。

科目の目標	触診、刺鍼技術の更なる向上と、様々な疾患に対して鍼灸治療を行うための、基本的な刺鍼技術や鍼通電技術を獲得する。
授業概要	2年間で学んだ基礎医学 (解剖学、生理学) と実技実習 (鍼基礎実習 I・II・III・IV、臨床評価実習 I・II、鍼灸応用実習 I・II) の知識と技術を基にして、鍼灸院で多く受診される疾患に対して施術する場合の、基礎となるパルス治療、特に筋パルスの技術を獲得する。

実務経験	講師歴22年 臨床歴22年 鍼灸、手技療法(あん摩・マッサージ・指圧・骨格矯正など)
実務経験と授業の関連	臨床においては患者様の需要と、我々施術側の供給の一一致、何よりも適切で安全な施術が重要になります。2年間の基礎と、実務に応用できる内容の授業を実務経験のもとに行います。

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション(鍼について、灸について)、刺鍼(基礎), リスクマネジメント…安全に刺鍼するには
2	身体バランスの見方、上肢、上肢帯の経穴刺鍼法①肩甲骨周囲
3	身体バランスの見方、上肢、上肢帯の経穴刺鍼法②前胸部、上肢
4	背部筋を使って反応部位の探し方と刺激量の調節の仕方
5	身体バランスの見方、体幹部(背部)刺鍼法①
6	身体バランスの見方、体幹部②腹部 倉敷配穴との組み合わせ

7	下肢帶①(骨盤, 股関節)刺鍼法
8	下肢帶②(骨盤, 股関節, 下腿)刺鍼法
9	局所治療①頸部(斜角筋)～肩関節刺鍼法
10	局所治療②膝刺鍼法
11	全身調整～後療法①
12	全身調整～後療法②
13	症状に応じた施術, 組み立て
14	実技試験
15	フィードバック
16	総復習

科 目	臨床応用実習 II	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	3学年
		実施学期	前期
教員名	橋本 巍	教員区分	実務教員

教科書	資料を配布する。
参考書	「日本鍼灸医学 経絡治療・基礎編」 経絡治療学会 「新版 東洋医学概論」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「新版 経絡経穴概論 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
成績評価	出席 (1回欠席 - 6点・1回遅刻 - 2点)、相応しくない身だしなみ (-4点)、授業態度、実技試験を総合的に評価する。
留意事項	体調管理 (睡眠、食事など)に努め、実習時に体調不良の場合は教員まで申し出ること。 1回完結の授業であるため、できるだけ欠席しないこと。 実習中はリスク管理に努め、無理な刺鍼は絶対にしないこと。 常に臨床を意識し、言葉使いや動作に細心の注意を払うこと。 刺鍼部位の露出しやすい服装を心がけること。 刺鍼部位の構造(骨、筋、靭帯、神経、血管)を必ず予習してくること。

科目の目標	触診、刺鍼技術の更なる向上をはかる。特に、経絡病証を考慮した治療を行うために必要な経絡流注の把握や基本的な切診技術、要穴の取穴と適切な刺鍼法を獲得する。
授業概要	2年間で学んだ基礎医学(解剖学、生理学)と実技実習(鍼基礎実習I・II・III・IV、臨床評価実習I・II、鍼応用実習I・II)の知識と技術を基にして、鍼灸院で多く受診される疾患に対して施術する場合の経絡治療を修得する。

実務経験	講師歴15年、臨床歴24年、鍼灸学修士(伝統鍼灸学)
実務経験と授業の関連	臨床においては適切で安全な施術が重要です。2年間の基礎を基に、自ら考える基本的な概念、技術と本質的な応用をもって臨床に臨む姿勢を提供します。

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション 経絡治療について、診察法概論(切診)、刺鍼の基礎(姿勢)
2	「肺經」流注と経絡病証・脈診(右寸口)と切經・要穴と背部俞穴刺鍼、刺鍼の基礎(押手)
3	「脾經」流注と経絡病証・脈診(右関上)と切經・要穴と背部俞穴刺鍼、刺鍼の基礎(刺手)
4	「心經」流注と経絡病証・脈診(左寸口)と切經・要穴と背部俞穴刺鍼、刺鍼の基礎(弾入)
5	「腎經」流注と経絡病証・脈診(左尺中)と切經・要穴と背部俞穴刺鍼、刺鍼の応用(旋捻)
6	「心包經」流注と経絡病証・脈診(右尺中)と切經・要穴と背部俞穴刺鍼、刺鍼の応用(雀啄)
7	「肝經」流注と経絡病証・脈診(左関上)と切經・要穴と背部俞穴刺鍼、刺鍼の応用(催氣)
8	「肝虚証」主証決定(脈診と六十九難)と対応する要穴刺鍼

9	「腎虚証」主証決定(脈診と六十九難)と対応する要穴刺鍼
10	「脾虚証」主証決定(脈診と六十九難)と対応する要穴刺鍼
11	「肺虚証」主証決定(脈診と六十九難)と対応する要穴刺鍼
12	体質別治療
13	体質別治療
14	実技試験
15	フィードバック
16	総復習

科 目	臨床実習	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	
		履修区分	
		単位数	2
		時間数	90
		履修年次	3年次
教員名	鍼灸学科教員	実施学期	前・後期
		教員区分	実務教員

教科書	特になし
参考書	特になし
成績評価	評価表に基づく
留意事項	臨床の場にふさわしい服装、態度で臨むこと

科目の目標	実際の臨床現場をしっかりと把握、理解し、適切な行動、患者対応ができる
授業概要	鍼灸臨床に必要な患者対応の知識、技術を学習する 臨床実習上で必要な各種の動作を学ぶ

実務経験	新宿医療専門学校付属左門町鍼灸院にて勤務
実務経験と授業の関連	臨床現場で経験した知識、技術を授業に取り入れる

日程【前期】

回 数	授業内容
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	・オリエンテーション
8	・衛生管理、施術所内の環境把握、後片付け（原状復帰）、言葉遣い 接遇、カルテ内容の把握、ワゴン準備、施術ブース内の環境把握
9	鍼出し、リスク管理、患者誘導、タオルワーク、血圧測定、
10	抜鍼動作、廃棄物の処理、温灸の使い方、グループによるロールプレイ
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科 目	総合実践実習	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	3 2
		履修年次	3学年
		実施学期	前期
教員名	前窪 美香	教員区分	実務教員

教科書	特になし
参考書	「アロマコーディネーター講座」 JAA 著 (日本アロマコーディネーター協会) 「Essential oil Guide book」 JAA 著 (日本アロマコーディネーター協会)
成績評価	期末試験で評価する。
留意事項	欠席せず取り組むこと。

科目の目標	アロマの実用的な知識と技術を身につける。
授業概要	アロマのクラフト作成やトリートメントを通してアロマの効能について理解を深める。

実務経験	JAA アロマコーディネーター取得、本校のアロマクラブにて指導を行う。
実務経験と授業の関連	実務で得た知識・技術を授業に取り入れる。

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション、アロマの基礎知識①
2	アロマの基礎知識②、クラフト実習①
3	アロマの基礎知識③、クラフト実習②
4	アロマの基礎知識④、クラフト実習③
5	アロマの基礎知識⑤、クラフト実習④
6	アロマの基礎知識⑥、クラフト実習⑤
7	アロマの基礎知識⑦、クラフト実習⑥
8	トリートメント実習④
9	トリートメント実習⑤
10	トリートメント実習⑥
11	トリートメント実習⑦
12	トリートメント実習⑧
13	トリートメント実習⑨
14	定期試験
15	フィードバック
16	総復習

科 目	臨床実習	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	90
		履修年次	3年次
		実施学期	前・後期
教員名	鍼灸学科教員	教員区分	一般教員

教科書	特になし
参考書	適宜紹介
成績評価	評価表に基づく
留意事項	臨床の場に相応しい服装、態度で臨むこと。

科目の目標	基礎医学に基づき、施術所来院患者に対し、的確な治療を体系立てて行えるように学習する。 治療の意義や目的を理解し、学生自身が自ら治療計画を立案できるように学習する。
授業概要	実際の臨床の中で患者を診ながら学習を進める。1年次、2年次を通じ基礎的な授業で学んできた実技と理論を実際の臨床のなかで治療として行えるよう総合的に学習する。

日程

回 数	授業内容
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	治療の準備・治療の組立て・刺鍼・抜鍼・カルテの記載など
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	評価、治療の準備・治療の組立て・刺鍼・抜鍼・カルテの記載など

科 目	基礎力重点コース (総合解剖演習)	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	演習
		履修区分	選択必修
		単位数	18(合計)
		時間数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	後期
教員名	山口 智也	教員区分	一般教員

教科書	特になし。配布資料で実施する。
参考書	「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「生理学 第3版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版)
成績評価	定期試験
留意事項	欠席をしないこと。 復習を必ず行い、記憶すること。 鍼灸師にとって必要な解剖学の知識を確認すること。

科目の目標	解剖学の基礎力を固め、考える力を養う。
授業概要	解剖学を中心に総合的に行う。

日程

回 数	授業内容
1	総合解剖演習 1
2	総合解剖演習 2
3	総合解剖演習 3
4	総合解剖演習 4
5	総合解剖演習 5
6	総合解剖演習 6
7	総合解剖演習 7
8	総合解剖演習 8
9	総合解剖演習 9
10	総合解剖演習 10
11	総合解剖演習 11
12	総合解剖演習 12
13	総合解剖演習 13
14	総合解剖演習 14
15	定期試験
16	解答・解説

科 目	基礎力重点コース (総合生理・病理演習)	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	演習
		履修区分	選択必修
		単位数	18(合計)
		時間数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	後期
教員名	本多 淳	教員区分	一般教員

教科書	「生理学 第3版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「病理学概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版)
参考書	「病気がみえる」シリーズ(メディックメディア) 「標準生理学」(医学書院) 「標準病理学」(医学書院)他
成績評価	定期試験により評価
留意事項	専門用語の位置づけ、各用語間の関連付けや、各用語の類似点・相違点の再確認を行う。 用語の理解が足りない点については授業時間以上の時間を割いて学習すること。

科目の目標	教育目標： 生理学、病理学教科書の各章ごとの概要・分類項目について全体像を意識させる。 到達目標： 生理学、病理学教科書にある専門用語について概ね解説ができる。
	教科書について、印象付けを強くしておくべき内容の再確認を中心とする。

日程

回 数	授業内容
1	神経の復習1
2	神経の復習2
3	神経の復習3
4	神経の復習4
5	神経の復習5
6	筋の復習1
7	筋の復習2
8	運動の復習1
9	運動の復習2
10	感覚の復習1
11	感覚の復習2
12	病理学の復習1(病因、循環障害、退行性病変)
13	病理学の復習2(進行性病変、炎症)
14	病理学の復習3(腫瘍、免疫異常、先天性病変)
15	定期試験
16	解答・解説

科 目	基礎力重点コース (総合衛生・リハビリ演習)	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	演習
		履修区分	選択必修
		単位数	18(合計)
		時間数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	後期
教員名	下山 隆朗	教員区分	一般教員

教科書	特になし。配布資料にて実施。		
参考書	「医療概論」 「関係法規 第7版」 「衛生学・公衆衛生学 第2版」 「リハビリテーション医学 第4版」	(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)	
成績評価	定期試験にて評価		
留意事項	問題点を見つけ出すこと。		

科目の目標	社会に関連のある公衆衛生学・リハビリテーション学を総合的に学習する。
授業概要	現代社会と公衆衛生の関連・現代社会のリハビリテーションを様々な事例から関連付けていく。

日程

回 数	授業内容
1	公衆衛生と現代社会 1
2	公衆衛生と現代社会 2
3	公衆衛生と現代社会 3
4	公衆衛生と現代社会 4
5	公衆衛生と現代社会 5
6	公衆衛生と現代社会 6
7	公衆衛生と現代社会 7
8	リハビリテーションと鍼灸 1
9	リハビリテーションと鍼灸 2
10	リハビリテーションと鍼灸 3
11	リハビリテーションと鍼灸 4
12	リハビリテーションと鍼灸 5
13	リハビリテーションと鍼灸 6
14	リハビリテーションと鍼灸 7
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	基礎力重点コース (総合臨総演習)	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	演習
		履修区分	選択必修
		単位数	18(合計)
		時間数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	後期
教員名	金子 尚史	教員区分	一般教員

教科書	「臨床医学総論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 配布プリント
参考書	「臨床医学各論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「病理学概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「東洋医学臨床論」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社) 「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「生理学 第3版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版)
成績評価	定期試験
留意事項	欠席をしないこと。 復習を必ず行い、記憶すること。

科目の目標	総合的に考える力を養い、応用力をつける。
授業概要	臨床医学総論を中心に総合的に行う。

日程

回 数	授業内容
1	総合臨床医学総論 1
2	総合臨床医学総論 2
3	総合臨床医学総論 3
4	総合臨床医学総論 4
5	総合臨床医学総論 5
6	総合臨床医学総論 6
7	総合臨床医学総論 7
8	総合臨床医学総論 8
9	総合臨床医学総論 9
10	総合臨床医学総論 10
11	総合臨床医学総論 11
12	総合臨床医学総論 12
13	総合臨床医学総論 13
14	総合臨床医学総論 14
15	定期試験・まとめ
16	解答・解説

科 目	基礎力重点コース (総合臨各演習Ⅰ)	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	演習
		履修区分	選択必修
		単位数	18(合計)
		時間数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	後期
教員名	與那覇 真樹	教員区分	一般教員

教科書	「解剖学 第2版」	(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
	「生理学 第3版」	(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
	「病理学概論 第2版」	(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
	「臨床医学総論 第2版」	(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
	「臨床医学各論 第2版」	(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
	「東洋医学臨床論」	(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
参考書	関連教材から適宜紹介	
成績評価	定期試験	
留意事項	総合的な学習となるので、必要と思われる分野の事前学習を行う事。	

科目の目標	上述の各教科書分野について、各用語にみられる関連性を意識付けし、問題解決能力の向上を目指す。
授業概要	例題などを用いながら、臨床医学分野と基礎医学分野の医学用語の運用に慣れる事や、症例の読解訓練を行う。

日程

回 数	授業内容
1	総合的な臨床医学各論の演習1
2	総合的な臨床医学各論の演習2
3	総合的な臨床医学各論の演習3
4	総合的な臨床医学各論の演習4
5	総合的な臨床医学各論の演習5
6	総合的な臨床医学各論の演習6
7	総合的な臨床医学各論の演習7
8	総合的な臨床医学各論の演習8
9	総合的な臨床医学各論の演習9
10	総合的な臨床医学各論の演習10

1 1	総合的な臨床医学各論の演習 1 1
1 2	総合的な臨床医学各論の演習 1 2
1 3	総合的な臨床医学各論の演習 1 3
1 4	総括
1 5	定期試験
1 6	解答と解説, 授業総括

科 目	基礎力重点コース (総合臨各演習Ⅱ)	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	演習
		履修区分	選択必修
		単位数	18(合計)
		時間数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	後期
		教員区分	一般教員
教員名	下山 隆朗		

教科書	特になし.配布資料にて実施.
参考書	「臨床医学各論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版)
成績評価	定期試験
留意事項	遅刻・欠席をしないこと.必ず復習を行い記憶すること.

科目の目標	今までに学んだ臨床医学の疾患をより深く学んでいく.
授業概要	一つ一つの疾患の特徴をより深く知ることにより,なぜ病気が発症し,なぜこの症状が出るのかを暗記ではなく理解できるようにしていく.

日程

回 数	授業内容
1	感染症 1
2	感染症 2
3	消化器疾患 1
4	消化器疾患 2
5	肝・胆・膵疾患 1
6	肝・胆・膵疾患 2, 呼吸器疾患 1
7	呼吸器疾患 2
8	腎・尿器疾患
9	内分泌疾患
10	代謝・栄養疾患
11	循環器疾患 1
12	循環器疾患 2
13	血液・造血疾患
14	総復習
15	定期試験
16	解答と解説, 授業総括

科 目	基礎力重点コース (総合臨床医学演習)	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	演習
		履修区分	選択必修
		単位数	18(合計)
		時間数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	後期
教員名	與那霸 真樹	教員区分	一般教員

教科書	「臨床医学総論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版)
参考書	「臨床医学各論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「病理学概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「東洋医学臨床論」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社) 「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「生理学 第3版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版)
成績評価	定期試験にて評価
留意事項	復習を必ず行い、記録・保存・想起の訓練を行ってください。

科目的目標	鍼灸師に必要とされる現代医学知識の再確認と練度の向上を目指す。
授業概要	臨床検査で頻出する項目について、意味と評価から得られる情報を疾患別の特徴と病態概念との結びつきについて前学期までで習得した知識とのすり合わせを行う。

日程

回 数	授業内容
1	基礎医学の再確認と臨床医学学習への応用①
2	基礎医学の再確認と臨床医学学習への応用②
3	基礎医学の再確認と臨床医学学習への応用③
4	基礎医学の再確認と臨床医学学習への応用④
5	基礎医学の再確認と臨床医学学習への応用⑤
6	基礎医学の再確認と臨床医学学習への応用⑥
7	基礎医学の再確認と臨床医学学習への応用⑦
8	基礎医学の再確認と臨床医学学習への応用⑧
9	基礎医学の再確認と臨床医学学習への応用⑨
10	基礎医学の再確認と臨床医学学習への応用⑩
11	基礎医学の再確認と臨床医学学習への応用⑪
12	基礎医学の再確認と臨床医学学習への応用⑫
13	基礎医学の再確認と臨床医学学習への応用⑬
14	総括
15	定期試験
16	解答・解説

科 目	基礎力重点コース (総合経穴演習)	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	演習
		履修区分	選択必修
		単位数	18(合計)
		時間数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	後期
教員名	北園 実鈴	教員区分	一般教員

教科書	「新版 経絡経穴概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社)
参考書	「経絡・ツボの教科書」兵頭明 監修 (新星出版社) 「東洋医学の教科書」平馬直樹ら 監修 (ナツメ社) 「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 配布プリント
成績評価	定期試験8割、暗唱2割(指定された期日までに行うこと)による総合評価。 総合評価ないし定期試験が6割未満の者は再試験とする。
留意事項	復習を欠かさず行うこと。 鍼灸師として必要な経穴の知識を確認しておくこと。

科目の目標	経絡経穴概論の基礎力を固め、考える力を養う。
授業概要	経絡経穴概論の内容を総合的に行う。

日程

回 数	授業内容
1	総合経穴演習1
2	総合経穴演習2
3	総合経穴演習3
4	総合経穴演習4
5	総合経穴演習5
6	総合経穴演習6
7	総合経穴演習7
8	総合経穴演習8
9	総合経穴演習9
10	総合経穴演習10
11	総合経穴演習11
12	総合経穴演習12
13	総合経穴演習13
14	総合経穴演習14
15	定期試験
16	解答・解説

科 目	基礎力重点コース (総合東洋医学演習)	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	演習
		履修区分	選択必修
		単位数	18(合計)
		時間数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	後期
教員名	黒岩 太	教員区分	一般教員

教科書	「新版 東洋医学概論」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「新版 経絡経穴概論 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
参考書	特になし
成績評価	定期試験にて評価
留意事項	東洋医学概論をしっかり復習すること。

科目の目標	東洋医学概論の応用を目標とする。
授業概要	東洋医学概論の総まとめ

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション 総合東洋医学演習 1
2	総合東洋医学演習 2
3	総合東洋医学演習 3
4	総合東洋医学演習 4
5	総合東洋医学演習 5
6	総合東洋医学演習 6
7	総合東洋医学演習 7
8	総合東洋医学演習 8
9	総合東洋医学演習 9
10	総合東洋医学演習 10
11	総合東洋医学演習 11
12	総合東洋医学演習 12
13	総合東洋医学演習 13
14	まとめ
15	定期試験
16	解答・解説